

## 第5回定例会一般質問

### (一回目登壇)

皆さん、おはようございます。維新の会、楠村信二でございます。間もなく議員となりまして1年を迎えようとしています。先輩同僚議員初め私にかかわる方々へ、この場をおかりし感謝いたします。

今回は尼崎の活性化、税収をふやすということをテーマにお話します。会派の思いというよりも私の思いでお話をさせていただきたいと思っております。重複もあるかとは思いますが、よろしく願いいたします。しばらくの間、御清聴のほうよろしく願いします。市長初め当局の皆様には、わかりやすい御答弁をよろしく願いします。

本市尼崎市は、今後10年にわたり約40億から50億の赤字が続くと発表しました。リーマンショックなどの影響もあり、本市の税収も大変落ち込んでいますし、行財政改革を平成13年から行ってきましたが、まだまだ厳しい状況です。今後、本庁を含め、公共施設の老朽化対策、教育分野ではソフト、ハード面への投資、高齢者への対策、福祉の充実などを考えれば税収をふやす必要があります。緊縮財政一辺倒では職員のモチベーションも上がらず、じり貧になっていくのではないのでしょうか。

尼崎市を活性化させ税収を上げるため、何かやらなければならないと思ひ、3つの政策提言をしたいと思ひます。

まず1つ目ですが、尼崎南部商業地域活性化についての政策提言です。本市小売業は平成9年には事業所数が5,593ありましたが、平成24年には2,388となり、15年間で約57%減少しました。特に小規模な小売店の減少が目立っています。また、販売額も平成9年には約4,883億円ありましたが、平成24年には約3,045億円と、15年間で約38%減少しています。この数値から見ても、本市の小売業が急速に衰退していることがわかります。近年では、本市を含め近隣他都市でも大規模小売店舗の出店が相次いでいますが、本市ではひとり暮らしの高齢者も多く、見守りの観点や、人と人とのつながりが希薄になっている時代だからこそ商品だけ売るのではなく、人と人とのつながり、会話がある商店街や個人商店のような顔が見えるお店が見直され、求められる時代になるのではないのでしょうか。

東京の上野にアメヤ横丁というのがありまして、通称アメ横と呼ばれています。長さ約400メートルの商店街に1日10万人、年末には50万人の人が訪れます。このアメ横のようなにぎわいのある商店街に南部商業地域を再生させたいと思ひます。

尼崎は南部、北部でまちの特徴が違い、主に南部は工業、商業地区が多くあり、尼崎市域全体の活性化を考える上でも南部から活性化を考えなければなりません。南部には尼崎の中で最大規模の商業地区である中央・三和地区があります。中央商店街は阪神尼崎地区に隣接しており、メイン通りとして東西へ伸び、終点付近でもう1本のメイン通りである三和本通商店街が、国道2号線から南へ貴布禰神社方向に阪神電車本線まで延びています。2009年には阪神なんば線が開通し、阪神尼崎から難波間がつながったことにより、神戸から奈良が線でつながりました。この開通で阪神尼崎駅は今まで以上に利便性が向上し、この地区の商圈が広がり、多くの人を広域から呼び込めるようになりました。また、近隣の阪神沿線ではこのような広範囲の商業地区がなく、魅力的な商店街に変える仕掛けをつくればかなり集客力が見込まれると思います。現在は昔ほどの活気はありませんし、奥へ行けば行くほど人通りは少なく、シャッター通りになっています。私はこの中央・三和地区を昔のように活気あふれる商店街に再生させたいと思っています。

そこで、再生への4つの仕掛けについてお話しします。

まず1つ目ですが、中央・三和地区に集客力のある超人気店を幾つかつくりします。大阪の日本一長い商店街を売りにしている天神橋筋商店街に天満天神繁昌亭という落語の寄席があります。この施設によって天神橋筋商店街はさらに人出が増しています。このような集客できる施設や店舗をつくり、足を運んでもらいます。尼崎出身のダウンタウンというお笑い芸人の人気番組に「すべらない話」というものがあります。先日、尼崎市のアルカイクホールでプレミアムライブがあり、各地から観客が押し寄せ、大盛況だったと聞いております。例えば中央・三和地区で若手芸人中心ですべらない話劇場という施設をつくり、神戸や奈良からも人を呼んだりすることも一つですし、全国公募で年1回コンテストを開き、人を呼べる店を選びます。この選ばれた店舗に対し、内装代、家賃1年分などの補助金を出し出店をしてもらいます。

2つ目に、空き店舗を利用し、高齢者などが気軽に来てお茶を飲んだり、休憩したりお話しできる高齢者憩いのステーションを何カ所かつくりします。3つ目に、2号線から三和本通を南に行くと、一番奥の阪神電車本線付近は人通りも少なく、かなり広範囲にシャッター商店街があり、治安悪化の観点からも再開発なども考える必要があるのではないのでしょうか。JR大阪駅高架下に新梅田食堂街という飲食店街

があります。例えばこのような飲食店街をつくり、通勤帰りのサラリーマンや家族連れ、カップルなどが訪れるエリアをつくるのも一つだと思います。

4つ目に、三和に来やすくするため、三和本通商店街の南端の貴布禰神社あたりに新駅、阪神尼崎一出屋敷間をつくり、東は阪神尼崎駅、西は新駅から三和への入り口をつくり、回遊性を高めれば効果的だと思います。東京のアメヤ横丁は商店街が約400メートルですが、それぞれ上野駅と御徒町駅というのが南北にあり、大変通り抜けしやすいつくりになっています。

ここで伺います。

東京の武蔵野市では、行政と商店街が協力しまちづくりを成功させ、にぎやかで住みやすいと言われる日本一住みたいまちをつくりましたが、本市においても何か仕掛けによって中央・三和地区の活性化を図り、にぎやかなまちをつくることについていかがお考えでしょうか。また、シャッター通りは防犯の観点からも対応が急がれますが、いかがお考えでしょうか。御答弁をお願いします。

次に、仮称「サイクルタウン尼崎」構想です。

高度経済成長期、尼崎市は工業のまちとして発展をしました。しかし、その発展は環境を破壊してきた負の発展でした。21世紀の尼崎は真の発展を遂げるため、エコと健康を兼ね備えたまち、仮称サイクルタウン尼崎、自転車のまちとして再生させようというものです。尼崎は全域が平坦な地形です。この地形を生かし、市内に歩行者、自転車、自動車がそれぞれの専用通行レーンを持ち、国土交通省も推進している無電柱化を行い、サイクルロードをつくるというものです。尼崎市内の武庫之荘、園田、杭瀬、西大島、武庫之荘を1周約16キロメートルの大街道で結んだ仮称サイクルリンクをつくり、その内側にサイクルロードを張りめぐらせます。これからは事故防止の観点からも、歩行者、自転車、自動車がそれぞれ通行点を持つ道路づくりが求められると思います。また、南部には、自転車産業の生産拠点を誘致し、雇用にもつなげます。そして、年1回は市を挙げての祭りを開催します。世界最高峰自転車ロードレース、ツール・ド・フランスを尼崎に誘致します。

ここで伺います。

現在の尼崎のイメージは治安が悪い、まちが汚いといったものです。尼崎のイメージを自転車、エコ、健康に一転させ、このサイクルタウンを尼崎にたくさんの方が来てもらえるように、先進的なまちづくり

をするためサイクルロードなどの道づくりを進めてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。このサイクルタウン尼崎にたくさんの方が来てもらえる先進的なまちづくりをするため、サイクルロードなどの道づくりを進めてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

最後に、仮称「ミッドナイト競艇」です。

ミッドナイト競艇とは、現在全国5場が実施をしているナイターレースが終わった後の時間帯の21時から24時までレースを行うというものです。今現在行っている競艇場はなく、全国初となるものです。平成3年ピーク時には約170億もの繰出金によって収入を上げ、ドル箱と言われた競艇ですが、年々売り上げは減少し、昨年度の繰出金は2.5億円まで落ち込んでいます。発売形態も以前は窓口の船券のみでしたが、時代とともに変化をして、電話投票、インターネット投票などへと変容してきました。現在、全国では電話投票、インターネット投票などの発売割合が全体の約33%になっています。

全国で競艇場は24場あり、売り上げトップファイブは住之江、桐生、蒲郡、若松、丸亀の5場です。特に蒲郡市、平成24年度繰出金20億円、北九州市、平成24年度繰出金5億円と、繰出金も高額となっています。これら競艇場に共通しているのはナイター開催をしているということです。通常、競艇場の開催時刻は朝10時30分ぐらいから16時30分ぐらいまでですが、ナイターレースは14時30分ぐらいから20時30分ぐらいまで実施しています。そのため仕事が終わった後に競艇を楽しむ方も多く、ナイターは昼前に売り上げが上がると言われていきます。また、ナイター開催をすれば、ほとんどの場が夕方以降レースをしていないため、独占状態で全国から電話投票、インターネット投票などによって売り上げが上がります。

競輪では2011年からミッドナイト競輪を開催しており、21時から24時ぐらいまでレースを行っています。近隣住民対策として観客を入れず競争を実施、車券は全て電話投票、インターネット投票で21時から24時ぐらいまでレースを行っています。また、ミッドナイト競輪では、通常の競輪競技と違う特別ルールで開催されており、選手の数減らしたり、周回数を減らすなど、よりエキサイティングでスピーディーなレースを行っています。

私は、尼崎でこのミッドナイト競艇を行ってはどうかと思います。開催場所は現在のセンタープールではなく、パナソニック跡地沿岸の尼崎港でレースを行うというものです。開催時刻は21時から24時の3時間でレースを行い、観客を入れず、ネット中継でインターネット

投票とします。競輪同様特別ルールで周回数も3周から2周にすることで、よりエキサイティングでスピーディーなレースが行えると思います。

ここでお伺いします。

尼崎競艇場の売り上げをふやし、本市繰出金をふやすためにも全国初のミッドナイト競艇を本市開催で実施していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。御答弁をお願いします。

以上で1問目を終わります。

(2回目登壇)

御答弁ありがとうございました。

今でも商店街、アーケードのリニューアルとか、取り組み、寺町との連携などされているということですが、私はもっと力を入れていただきたい。先日、園田バルというのがありまして、私はボランティアスタッフとして参加をさせていただきました。商店街にたくさんの方が来られて活気があふれて、にぎやかなまち、大変私は魅力があるなというふうに感じました。そして、仕掛けをすることの重要性、これを大変学ばせていただきました。

戦国時代、織田信長という人は、商業の活性化として楽市楽座という経済政策を行いまして、人、物、金、情報、これを集めたわけです。それによって大変そのまちを発展させ、そして戦を有利に進めた、こういうことがあります。本市においても、商店街を活性化させるからくりづくりにもっと力を入れていただきたいなど、それともう一つ、シャッター商店街、これは大変治安が悪くて怖いということも聞いております。ぜひとも対策を急ぐ必要があるかと思っておりますので、よろしくをお願いします。

そして、自転車、サイクルタウン尼崎構想というものですけれども、私は尼崎を自転車で走り回っていることが多いんですけれども、いつも思うのは、走っていて大変走りにくいな、そして危ないということを大変感じております。最近では多くの自治体が自転車の安全の利用に関する条例を制定しています。大阪の堺市、竹山市長という方がおられるところですが、自転車のまちとして市を挙げて取り組んでいるんです。しかし、尼崎市は地の利を見ても堺市以上の可能性を秘めていると思います。堺市ではコミュニティサイクルという共同の自転車を利用する交通システムがあり、自転車の利用促進によってCO2排出量の削減や駅前等放置自転車対策を行っております。

尼崎市は現在、市バスの路線網が大変張りめぐらされていますが、しかし市バスは民間移譲され、将来的には市内の交通格差があらわれてくると思います。近未来を見据え、本市地形を最大限生かした自転車を活用した市内交通システムの構築、そして条例制定についても要望しておきたいと思います。

最後に、ミッドナイト競艇ですけれども、私は個人的に競艇という競技が大好きで、今全国に24場あるんですけれども、ほぼ九州以外は全部自分の足で見に行きました、個人的にですね。大変レースは、競馬、そして競輪にはないすごさがあると私は個人的に思っておるわけなんですけれども、尼崎もせっかく競艇、センタープールというのを持っています。新しい公営競技をつくるのは大変ハードルが高い。ですからミッドナイト競艇ですけれども、平成3年には約170億もの繰出金によって本市の財政にも大変貢献をしてきたわけです。現在売り上げも約3分の1、ピーク時の3分の1まで落ち込んでいると、しかし現在においても繰出金20億を出している自治体がやはりあるわけです。尼崎の10倍ほど出している自治体、蒲郡市というところなんですけれども、名古屋のほうですけど、そこもナイターをやっています。大変そういうところでは住民と衝突もあったり、住民を説得させたり、それは大変なエネルギーが必要だと思います。それだけ税収を上げるには大変な労力が必要だと思います。

私は、今回ミッドナイト競艇を言いましたから、センタープールでやろうというのではなく、パナソニックの跡地沿岸、尼崎港です。今はネットで中継もできます。インターネットで投票もできますし、観客を入れずにぜひともやっていただいて、尼崎市にたとえ5億でも繰出金というのをプラスしていただいて、私は真の弱者、大変尼崎には多いと思います。先日も尼崎学園というところに視察行かせていただいた。虐待を受けている子供さん、そして貧困な高齢者も多いです。そういう真の弱者を救うためにも真の強者をつくっていかねばいけない。そして、お金もどうやってそこを助けるために持ってくるかというところ、それをしっかりと考えていかねば真の弱者というものを救えないです。真の強者をつくっていかないとだめです。

競艇は、私はやり方によっては、ほかの場でも20億円上げていることから、もう少しやはり努力していただきたいなというふうに思います。そして、今回の私の提案ですけれども、せめて設備投資、コストがどれだけかかって、そして売り上げがどれだけあるのかということ、一度これぐらいを検討していただけたらなというふうに思います。

今回、尼崎のイメージを変える、にぎやかなまちをつくる、財源をふやすための3つの政策提言をしました。例えば尼崎のイメージというもの、大変長い年月についたイメージを変えるには、大きな仕掛け、目玉をつくらなければ簡単には私は変わらないと思います。ぜひとも尼崎を大きく変えるため、小さな政策ではなく大きな政策で大きく変えていただけるよう要望いたしまして、私の全ての質問を終わります。御清聴ありがとうございました。